農作業着型（二部式）刺子資料の分析

－国立民族学博物館収蔵標本による(2)－

山　崎　光　子

Analysis of Farmer's *Sashiko* Specimens in the National Museum of Ethnology (2)

Mitsuko Yamazaki

前報においては防寒着型（二部式）刺子資料について分析したが[1]，引きつづき本報では農作業着型（二部式）短衣の刺子資料の分析の結果を報告する。

研究方法

研究方法は，前報で述べたように，すでに設定した分析方法に準じ[2]，下記の項目とした。

1. 資料の情報
   資料の概要
   採集地，採集時期，採集者，名称(呼称)等について
2. 資料の分析
   a. 形状の状況（写真・図）
   b. 材料
      (1) 織布の材質と色，織・染柄（図）
      (2) 縫い糸の材質と色，刺子模様（図）とその意匠構成（図）
   c. 縫い方と裁ち方
      (1) 縫い方の状態，縫い代の様子（図）
      (2) 裁ち方の推定（図）

結果と考察

資料２－１　〔品名〕鉄砲袖袷短衣

〔標本番号〕Ｈ 21415（衣類Ｆ－４－14）

この標本は，他の多くの資料と一緒に文部省資料館から民族学博物館に移管された衣類であるが，資料の採集時の情報は全く記されていない。仕事着であることと，資料の外見的説明としての「掛襟，肩袖格子，胴縞木綿布，裏厚手メリヤス，胸紐付」がメモされているにとどまる。品名は袷とあるが，刺子の単仕立てであるためここでとりあげた。刺子資料には珍しい鉄砲袖の短衣であるが，本館に収蔵されたばかりの青森県の衣類の中にも類似の資料がみられる。このかげ衿，鉄砲袖，上半衣形式の形態は全国各地にみられる型として分類できよう。

a．形状

鉄砲袖は洋服形式の袖であるが，運動量を補うため，袖下に襠がつけられたものである。前後の肩部分と袖に小さい格子木綿を用いているのも洋服の雰囲気をかもし出す。袖口から襠までの15cm位のところまでは，紺の細縞の大きな袖口布で補強されており，それらが衿の濃紺木綿の色とともに，この労働衣服に一つのアクセントを与えている。

衿はかげ衿で，衿下をみると前身頃の布端がそのまま５cmほど折り返されて見返しの役を果している。裾には，幅のせまいへりとりが丁寧につけられている。附記されていたように，粗い横縞入りのメリヤスシャツの古着らしいものを肩当て状に，前後身頃に縫いつけて補強，保温への配慮がなされている。肩部分のいたみはほとんどない。二枚重ねの裏側には手拭地が用いられてあり，袖の裏にも縞や中型染布などの古布が刺子されている。左胸に縦18.5cm，横17.5cm角のやはり手拭地裏のついたポケットが，ぐし縫いであとから貼りつけられている。胸には紐が，右前は表側に，左は裏側につけられており，きものと同様右前にして衿をあわせて結ぶようになっている。紐の幅はいずれも０.８cm，長さは右が21cm，左18cmで簡単にぐし縫いしてあるが，本体に共布はなく，あとから胸のはだけるのを防ぐために縫いつけられたものかもしれない。ほかの，補強布などと合わせると図にみられるように織布が配置される。

b．材料

(1) 織布の素材と柄，染め色

表布はいずれも平織りの木綿布である。肩と袖に洋服地風の格子柄が用いてあるが広幅ものではない。色は暗い灰〔N３(dark gray)〕の地色に黄茶〔10Y 6/4 (yellow brown)〕の格子であるが，裏側からみると元の色は濃紺地に紅色がかった格子縞であった。糸密度は，経〔24本/cm〕，緯〔20本/cm〕とやや粗く，比較的細

かい糸を使っていて薄地である。身頃は細かい紺縞〔2.5PB3／8（deep blue）〕の間に灰味黄緑〔2.5GY 6／4（grayish yellow green）〕や，クリーム色，茶色，うすい青，うすい緑色など，淡色ながら多様な色が細かいやたら縞となって入っている。糸密度は経〔24本／cm〕，緯〔22本／cm〕である。

袖口布は紺地〔2.5PB 2／3（dark grayish blue）〕に白茶縞〔7.5YP 8／2（light grayish brown）〕で，糸密度は経〔28本／cm〕，緯〔24本／cm〕である。左胸のポケットは紺地〔2.5PB 2／2（dark grayish blue）〕に黄茶縞〔10YR6／4（yellow brown）〕，糸密度は，経緯とも〔28本／cm〕である。衿は藍染の紺無地〔2.5PB 2／3（dark grayish blue）〕，糸密度は経〔23本／cm〕，緯〔20本／cm〕で織糸の粗密が大であった。なお，補強布は袖口布に類似の布が多かった。

裏布には手拭いも利用されており，模様はさくら，つばめ，車輪などが黒く染め出されている。糸密度は経，緯とも〔20本／cm〕である。袖裏は縞や型染，襠裏は浅黄であるが，型染の布団皮の裏らしく染もようがかすかにみえる。肩裏には厚手のメリヤス編みのシャツ地が用いられ，その部分だけは三枚重ねとなっており，2.71㎜と厚い。他の身頃部分は二枚重ねで 0.81㎜，袖口は三枚重ねで 0.91㎜ 衿は 2.20㎜ で紐の厚さは 1.82㎜ である。また総重量は 600 g である。

(2) 縫い糸の材質と色，刺し方

縫い糸はいずれも右撚りの藍染めの紺木綿糸２本どりであったが，大半，浅黄色に退色している。あとからの補修の糸は黒色にみえるが，これも濃い藍染で裏の手拭地に藍がうつっている。刺し糸も同じ右撚りの紺糸を１本どりで刺してある。

刺し方は小針で比較的細かく〔20針目／10cm〕の針目，表の縞にそって約2.3cm間隔位で刺してあり，裏からもあまり目立たない。袖口布のところもほぼ同様に刺してあるが，袖は5cm間隔に刺してある。メリヤスの肩当て布は，背の中心は〔6針目／10cm〕でとめ，周囲は〔9針目／10cm〕でとじてあった。

c．縫い方と裁ち方

背の縫い代は，2.5cmと多く，紺糸２本どり〔10針目／10cm〕で合わせ縫いののち，紺糸１本どり〔6針目／10cm〕で伏せ縫い，脇も縫い代，針目ともほぼ同様で，袖つけは紺１本どりで合わせ縫い〔10針目／10cm〕と伏せ縫い〔7針目／10cm〕。袖の襠は紺糸１本どりで〔10針目／10cm〕の合わせ縫いをしたあと，〔9針目／10cm〕で伏せ縫いがしてある。袖口は表布のままで，裏に0.8cm幅に折り返して，紺糸１本で細かく三つ折り縫い〔15針目／10cm〕がしてあった。裾のへりとりは，裏側に紺糸１本，〔13針目／10cm〕で丁寧に三つ折り縫いがしてある。馬のりと衿下は，耳のままそれぞれ紺糸１本で〔11～12針目／10cm〕，〔10針目／10cm〕で耳縫いがしてあり，衿は紺糸１本どり〔5針目／10cm〕でくけてあった。ポケットは縞柄にきちんとそって刺子した布を用いているが，つけ方はいたって粗雑で，紺２本どりで〔8針目／10cm〕で耳はそのまま，他は折って粗く縫いつけてある。ポケットの中にはワタゴミと一緒に木の皮のくず，あるいはきざみたばこのような小片が入っていた。衿山は，すり切れてしまった部分には内側に足し布を入れて繕うなどよく補修してある。

鉄砲袖の場合，裁ち方は身頃部分は一般の労働衣服と同様であるが，袖の布使いが異なる。すなわち，和服形式の場合の袖幅が袖丈となり，布を袖丈方向にむかって縦に使うため裁ち方も変わってくる。袖の襠は30cm位の布を対角線で切り離し，直線の耳側を袖部分にもってきて縫いつけているため，柄模様に表裏のない布であることが必要となる。布幅は，表布34cm，裏布32cm，総用布は約480cmである。

資料２－２〔品名〕農作業衣

〔標本番号〕H 8086（衣類E－３－７）

これまで報告した山形県の刺子とは異なっているがこの資料は，庄内地方には多くみられる形態の労働着である。品名にもある通りの農作業衣で，漁村のドンザや防寒的な刺子とちがい，実際に労働を目的とし，下半衣をともなう半袖の仕事衣として分類できよう。この形態の類例は，近県の秋田や新潟にも多くみられその伝播の様子に興味がもたれる。

この資料は，文部省資料館から移管されたものではなく，かつて個人的に収集されたもので，〔山形，鶴岡〕と書いた布が縫いつけてある。鶴岡の致道博物館にも筆者のもとにもほぼ同種のものが所持されている。

a．形状

形状はかげ衿，襠つき半袖で比較的細身の身頃で，馬のりがついていて動作がしやすくなっている。袖口と衿下から裾にかけてへりとり布がある。全体を紺色で統一して，かげ衿だけに衿布専用らしい変わり平織りの縦縞布がついている。胴の部分にはぎ布がある。それは二枚重ねであるが，刺しはなく，やはり紺木綿である。丈が不足で足したものだろうか。あえて帯をしめる部分に挿入したのはそれをかくすためだろうか。刺しがないため，そこは若干薄手となるが，割はぎと

はいえ上下の接ぎ目が重なり，帯をしめるときに邪魔になると思われる。筆者の刺子も同様であるが，致道博物館の犬塚氏によれば，このようなはぎ方は珍しいとのことで，同博物館の同形のものは裾ではいであった。

この資料は，よく着込んであり，肩から袖にかけては左右，前後とも刺し模様でできた凸の部分の布がすり切れ，藍染の色も飛び薄く白くなっている。荷をかついで田畠へ往復することが多かったのだろうか。裏側はきわめて色鮮かで，ほとんど退色がみられず，袖裏の糸の結び目がやや白くなっている程度であった。馬のりと裾の左前は黒木綿布で補修してある。

b．材料

(1) 織布の素材と染め色

素材は紺無地の平織木綿布であるが，表裏とも布自体には，はぎ目がない。しかし表布と裏布は異なり，胴布も異なる。布の色と刺し糸の色はほとんど同一の色にみえる藍染である。その染め色は〔10B／22(bluish black)〕で，糸密度は表裏とも経〔22本／cm〕，緯〔14本／cm〕位でやや粗く手織布かとも思われる。胴のはぎ布は経〔22本／cm〕，緯〔18本／cm〕ほどであった。これと補修布は藍染めではない。かげ衿は灰黒〔N 2 (dark gray)〕地にうすオリーブ色〔7.5 Y 7／4 (pale olive)〕の細縞で，糸密度は経〔31本／cm〕緯〔36本／cm〕とこまかい。厚みは二枚重ねで身頃 1.67 mm，袖 1.58 mm，衿 2.52 mm，へりとり布 3.12 mm，総重量は 690 g であった。

(2) 縫い糸の材質と色，刺し模様

縫い糸は右撚りの太い紺糸 2 本どり，伏せ縫いには細い左撚りの紺糸 2 本どりを用いている。補修糸は黒糸である。刺し糸は右撚りの太い紺木綿糸 2 本どりである。

刺し方は縦方向は〔24針目／10cm〕が〔16本／10cm〕，横方向は〔24針目／10cm〕が〔15本／10cm〕である。刺し模様は附図のように斜め矢羽根形に階段状に刺してあるが，離れてみると斜線にみえ，しかも左右の身頃が逆方向になるように対称的に刺してある。この意匠構成は他の同形態のものにもみられる。袖は左右，一緒に刺してから切り離したものか，模様は特に身頃と合っていない。東北でちりめん刺し，ビッチ刺しなどと云われているが，布全体にびっしりと刺子をして布にちりめんのような凹凸の浮かびあがる刺し方で，さらに裏側は針目を角ごと半返しして，糸がひっかかってもちぢまないように配慮されている。袖下の襠の部分にも簡単な刺し模様があったようであるが，かなりすり切れている。

c．縫い方，裁ち方

縫い方はいたって丁寧である。繕い方もやはり丁寧で，布色や糸の色が異なるため着用後のものであることがようやくわかる。胴のはぎも合わせ縫いののち上下に割ってから丁寧に表に小針を出してとじつけてある。縫い方は背，脇，袖つけともに合わせ縫い〔12針目／10cm〕ののち伏せ縫い〔8針目／10cm〕，裾の伏せ縫いは〔12針目／10cm〕，衿つけは〔12針目／10 cm〕で衿裏側の耳ぐけは〔4.5 針目／10cm〕であった。

裁ち方図からもわかるように，布の用尺は比較的少ない。しかし，ほぼ新しい布を用いたと思われる。布幅は表布33cm、裏布は31cmであるが，ぬいちぢんでいるから実際はもっと広い。用丈は身頃，袖で 210 cm，衿 100 cm，胴布は50cmほどであった。

資料 2 － 3 〔品名〕ヤマジバン

〔標本番号〕H 16513 〔衣類F － 5 －10〕

1934 年 3 月，宮崎県西臼杵郡椎葉村大字大河内で，早川孝太郎氏によって採集されたもので，現地名欄にはヤマジバン，タナシと書かれている。同年同月には西臼杵郡内から，足半（あしなか）など24点が採集されており，その中には高千穂町秩乞のタナシ（標本番号 16525)もある。

全面に刺子模様をもつ平袖である。この平袖は全国各地にもみられる形である。身頃に浅黄木綿，袖と衿に黒地白縞布を配してある。それは，新潟県の柏崎で同じ早川氏によってその前年，1933年2月に採集されたサシコ（H 16032）[2]を想い起こさせる刺子模様であり，布使いである。仕立て方は，へりとり布のない点で資料 1 － 2 婦人作業衣[1]と共通している。

このヤマジバンは，肩部分が抜けて布がなくなるほどに使い古されている。腰部分には血痕が残っている。なお，ヤマジバンとは農作業時の衣服の意であろう。ヤマとは一般的に田畠のことを指す。

a．形状

平袖の二部式，上半衣，襦袢衿型で通し衿が裾までついている。前身頃の打合わせ量も充分で，馬のりもあり，働きやすい仕事着と思われる，身八つ口があり女物である。

平袖の着装法は，一般的には鉄砲袖や長ごてとの組合わせが考えられるが，共同研究員の日浅治技子教授（秋田農業短期大学）によれば暖かい地方の平袖は，通気性をとるためのものであろうという。刺子の目的も，あるいは布に凹凸をもたせることによって，ちぢみ織物のように，むしろ夏衣としての適切さを意図し

たものかもしれない。

布地はいずれの部分も二枚重ねにして模様を刺してから，単仕立てにしたものであるが，他の刺子よりは薄手に仕上げてあり，へりとり布は全くなく，むしろ反対に袖口は表裏とも耳のまま重ねて縫い合わせただけで布端の始末はしてない。裾は刺子する前に表布を裏側に14～15cm折り返して，羽織仕立てのように縫ってあるため，ウになっていて，そのいずれもがすり切れて部分的に布が欠落している。左衿先には縫い代がかたまっているが，右衿先は裾のウの部分とともにきれて失われている。色の浅黄も退色し，やや黄変している。

以上のように手ざわりはやわらかく，よく着古され表面がすり切れて欠け，穴があいたりしているが，仕立て方は丁寧であり，高度な仕立て技術をもってつくられた仕事着である。

表布は肩以外には，はぎ目も繕い部分もなく，縫い代部分にみえる紺色やすり切れた衿の中の裏布の紺色は，あざやかであるから，以前，長着の裏布に使ったいたみの少い部分を天地を逆にして更生したもので，初めは藍地に白い刺し糸が映えて，ずい分美しいものだったと思われる。袖口や裾の仕立ても装飾性を意図していたとすればうなづける。掛け衿の痕跡も全くない。

b. 材料

(1) 織布の素材と柄，染め色

素材はいずれも平織の木綿布であるが，身頃の粗い組織の浅黄木綿と袖の糸密度のこまかい黒地細縞の二種で，藍染の浅黄布の色は〔5B 4／4（dull greenish blue)〕，表身頃と裏身頃の一部に織布配置図のアの部分にみられるよう配されている。もとは美しい縹色だったらしく，破れた衿の下からその色がのぞいている。糸密度は経〔22本／cm〕，緯〔17本／cm〕で，糸の太さが均一でなく手織布と思われる。

白茶の布〔2.5Y7／2（light brownish gray)〕は裏側に図中ウのように配されているが，やはり手織布らしく，糸密度は経〔20本／cm〕，緯〔17本／cm〕である。図中のエのもう一つのうすよごれた白茶の布〔2.5Y 6／4（pall yellow brown)〕は，ブロード生地で糸密度は経〔41本／cm〕，緯〔26本／cm〕であった。それらの白布の縫い代の内側には，藍がうつって少し青みをおびていた。うす黄茶〔7.5YR 7／4（pall yellow red)〕の細い縞をもつ図中イの黒地布〔N 1（black)〕は衿と表，裏の袖布で，裏身頃の一部に類似の黒地縞がある。糸密度は前者は経〔24本／cm〕，緯〔21本／cm〕，後者は経緯とも〔21本／cm〕である。厚さは二枚重ねで身頃が0.7mm，袖1mm，衿6.9mmであった。重さは650gであった。

(2) 縫い糸の材質と色，刺し方

縫い糸は右撚りの細い白木綿糸で，補修や裾のまつり糸には黒糸がつかわれている。

刺し糸は，右撚りのやや太い白木綿糸2本どりであるが，2本がよく揃わないため，糸が太々としてかえって模様としての効果をあげている。薄地のため，洗たくをくり返しているうちにそのようになったものだろうか。

刺し模様は，衿，袖の黒地布部分がややこまかく，浅黄地の模様はやや大きい。布の大きさにあわせて模様の大きさがきまったのかもしれない。針目は，表裏ともほぼ同じ縫い目で縦〔11針目／10cm〕，横〔9針目／10cm〕，斜めには〔9針目／10cm〕であった。縫い目の交又する部分への配慮は特にないぐし縫いで，先の柏崎の資料の縦横斜めの4つの線の交又点が花の芯のように心配りされていたのと対称的である。

c. 縫い方と裁ち方

縫い方は布地が薄いため比較的粗い縫い目で，背と脇の合わせ縫いは2本どりの白糸で〔10針目／10cm〕，他は1本どりで袖つけは〔11針目／10cm〕の合わせ縫いのあと，〔9針目／10cm〕で伏せ縫い，袖下は〔10針目／10cm〕の合わせ縫いののち，〔8針目／10cm〕で伏せ縫いがしてある。衿のまつりは，〔5針目／10cm〕位であった。布を刺子にする前に二枚重ねにした時のしつけ糸は，〔8針目／10cm〕である。

裁つために用意した布は，身丈や袖丈の寸法にあわせて配したものであるが，ここでは直接，表身頃から裾線がつづいて折りかえされている裏部分も加えて，裁ち方推定図をつくった。身頃と衿，袖にわかれる。袖は平袖のため，これまでのものと比べて，また，一般的な和服の袖よりもさらに単純である。布幅は31.5cm，総用布は浅黄木綿420cm，黒地縞235cm位であった。

要　　約

1. 資料についての情報

(1) ここであつかう資料は，農作業用と思われる上半衣型（二部式）の3点である。

(2) 収集者は，2点はアチック・ミューゼアム同人であり，1点は個人の蒐集家によって採集されたものである。

(3) 採集時期は，1点は1934年であり，他の2点は不明である。

(4) 採集地は，山形県と宮崎県，1点は不明である。

(5) 呼称は，鉄砲袖袷短衣，農作業衣，ヤマジバン（又はタナシ）である。

2 資料の分析

a．形状

(1) 本資料の構成要素は，身頃，袖，衿から成っている。

(2) 衿は，かげ衿型が2点，本衿襦袢型が1点である。

(3) 袖は，鉄砲袖と半袖と平袖である。

(4) 馬のりは3点ともあり，11.5 cmから20.5cmである。

(5) つけ紐は，胸もとのはだけるのをふせぐために左右の胸元に紐の一組がつけられたものが1点だけある。

(6) 各資料の寸法

① 丈については，最少値81.5cm，最大値91cmである。

② 裄丈は，最少値45cm，最大値70.5 cmである。細袖と半袖は仕事着の長短，両極端の長さの袖なのでその差異が大きい。

b．材料

(1) 織布の材質と柄，染め色

① 素材は3点とも木綿布で，組織は平織である。

② 糸密度は，経糸は〔22本／cm〕から〔41本／cm〕まで，緯糸は〔14本／cm〕から〔26本／cm〕までである。

③ 布の厚さは，0.7 mm から6.9 mmまでである。

④ 合わせ布の枚数は，3点とも2枚合わせである。

⑤ 布の重さは，600 g から690 g である。

⑥ 表布の織柄は，紺地茶縞のもの1点，紺無地のもの1点，浅黄無地と黒地縞のもの1点である。

裏布の織柄は，白地の手拭いを用いたもの1点，浅黄無地のもの1点，浅黄無地と黒地縞と白茶無地のもの1点である。

表布で2種類の布を用いた資料は2点，1種類の布を用いた資料は1点であるといえよう。

(2) 刺子糸，縫い糸の材質と色

① 刺子糸，縫い糸いずれも3点とも木綿糸である。

② 刺子糸の撚り方は，3点とも右撚りである。縫い糸も3点とも右撚りの糸を用いているが，1点だけ部分的に左撚りの糸を用いているものがある。

③ 刺子糸の色は，紺を用いたものが2点，白と黒を用いたものが1点である。

④ 縫い糸は，紺を用いたものが2点，白と黒を用いたものが1点である。

⑤ 刺し方は，縦刺しが1点，矢羽根状に刺したものが1点，模様刺しが1点である。

刺し方の針目は，〔9針目／10cm〕から〔24針目／10cm〕であり，その間隔は，〔4本／10cm〕から〔20本／10cm〕である。

c．縫い方と裁ち方

(1) 縫い方

① 縫い方は，合わせ縫いと伏せ縫いで縫ってあるもの2点，合わせ縫いだけで縫ってあるもの1点である。その縫い目は，合わせ縫いは〔10針目／10cm〕から〔12針目／10cm〕であり，伏せ縫いは〔6針目／10cm〕から〔8針目／10cm〕である。

② へりとりの様子は，裾だけへりとりがあるもの1点，衿，衿下，袖，裾にあるものが1点，へりとりのないものが1点である。

(2) 裁ち方

① 布幅は，31.5 cmから34cmである。

② 表布の用尺は，440 cmから655cmであり，1反でほぼ2枚分の作業着が出来ることになる。

謝　辞

この報告は国立民族学博物館の共同研究「非破壊分析をともなう日本在来の労働衣服の比較研究」の成果の一部である。

御指導いただきました共同研究の代表者の中村俊亀智教授（国立民族学博物館），ならびに西村綏子教授（岡山大学）をはじめとする他の共同研究員の方々，さらには資料の利用に御協力下さいました国立民族学博物館情報管理施設の方々に，心から御礼申し上げます。

文　献

1） 山崎光子；防寒着型（二部式）刺子資料の分析ー国立民族学博物館収蔵標本による(1)ー。県立新潟女子短期大学研究紀要，No.21，（1984）.

2） 山崎光子；国立民族学博物館収蔵の労働衣服ーとくに刺子の形態・染織の分析ー。国立民族学博物館研究報告，5（3），778～780，1980.

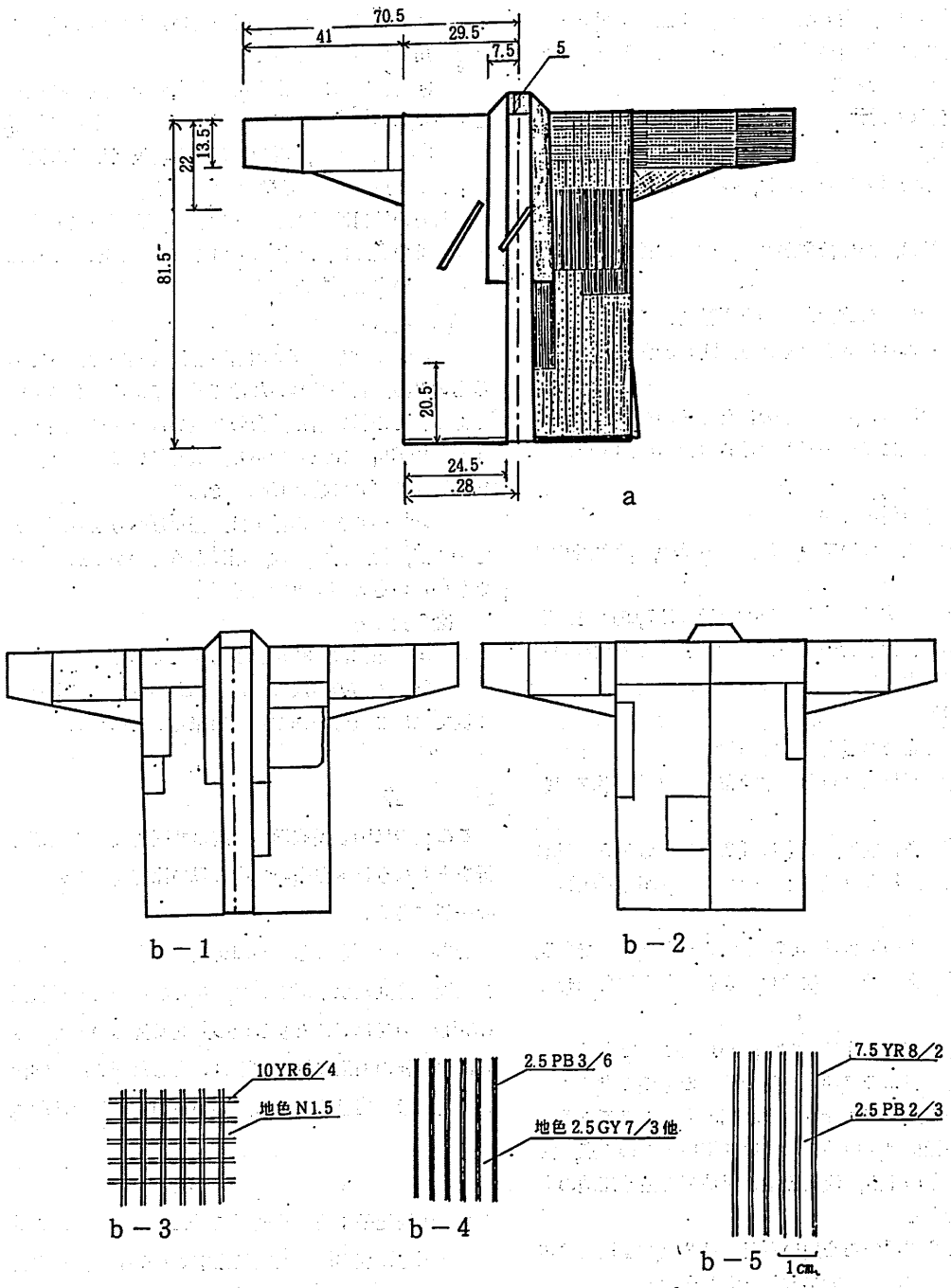


図1　資料2－1〔品名〕鉄砲袖袷短衣〔標本番号〕H 21415

a　　形状図
b－1　織布配置図　表，前面
b－2　織布配置図　表，後面
b－3　表布，肩，袖部分の格子柄
b－4　表布，身頃の縞柄
b－5　表布，袖口の縞柄

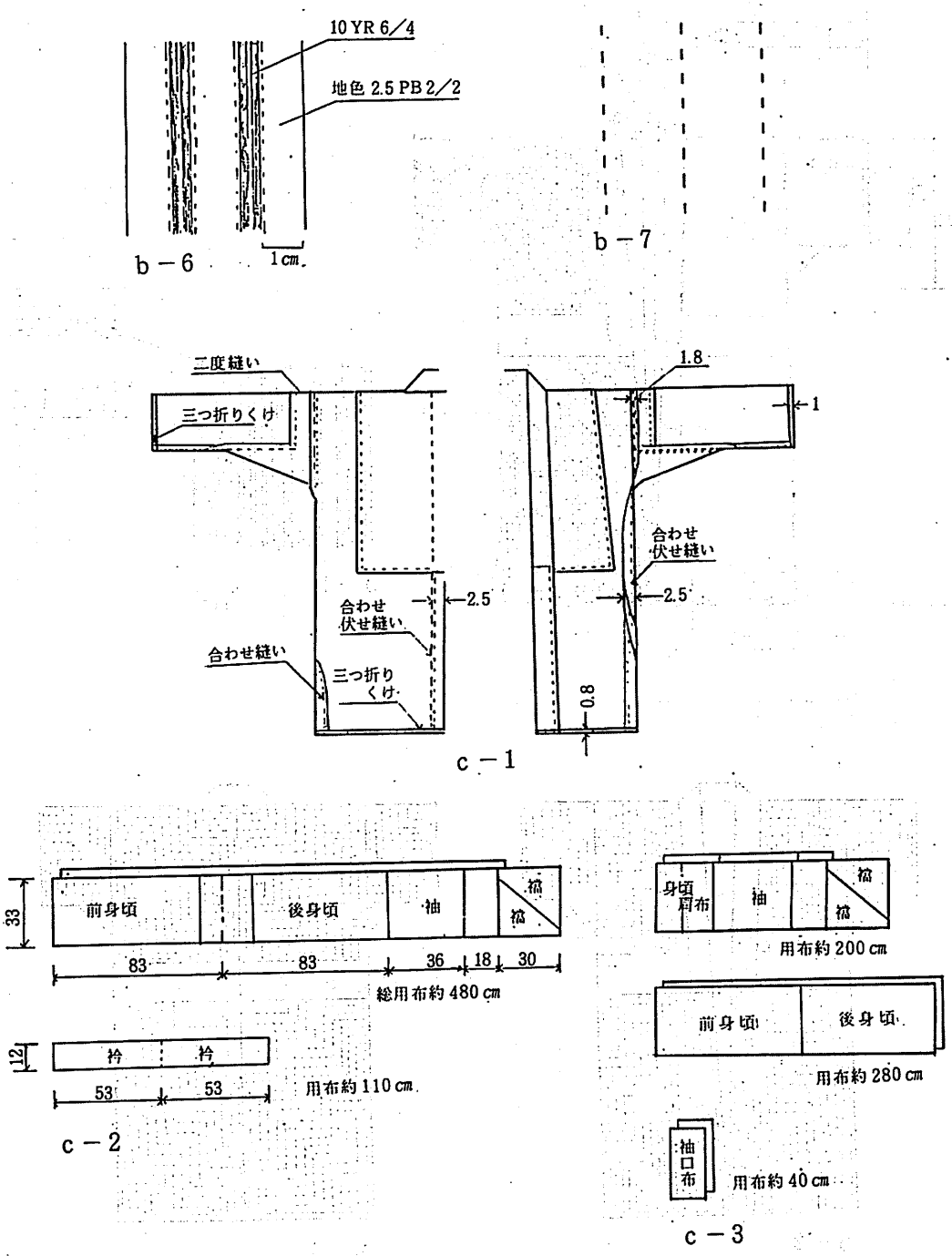


図 2　資料 2－1〔品名〕鉄砲袖袷短衣〔標本番号〕H 21415
　　b－6　表，ポケット布
　　b－7　刺し方
　　c－1　縫い方
　　c－2　裁ち方推定図　全体図
　　c－3　裁ち方推定図　布別部分図

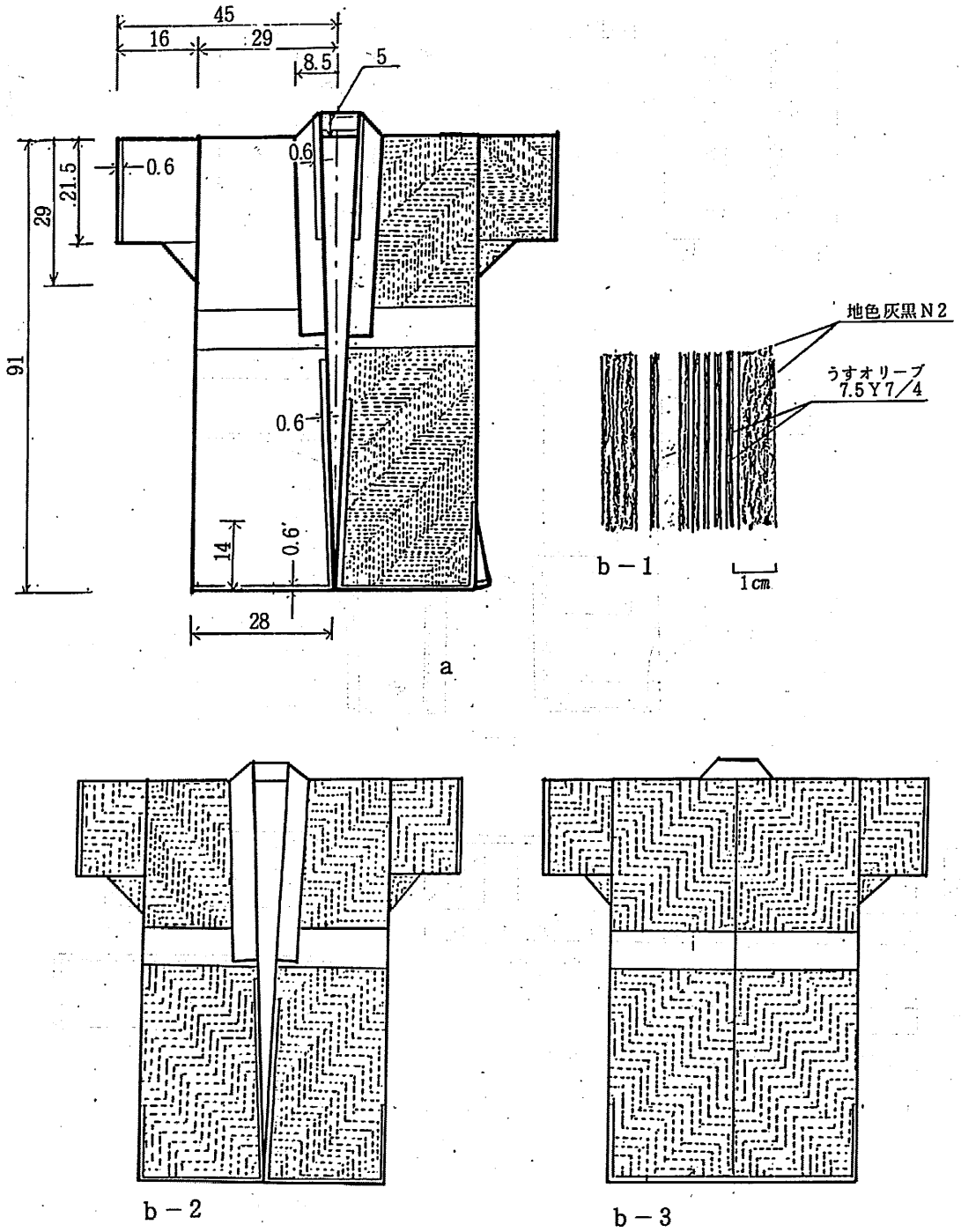


図3　資料2－2〔品名〕農作業衣〔標本番号〕H 8086
a　形状図
b－1　衿布の縞柄
b－2　刺し模様配置図　表，前面
b－3　刺し模様配置図　表，後面

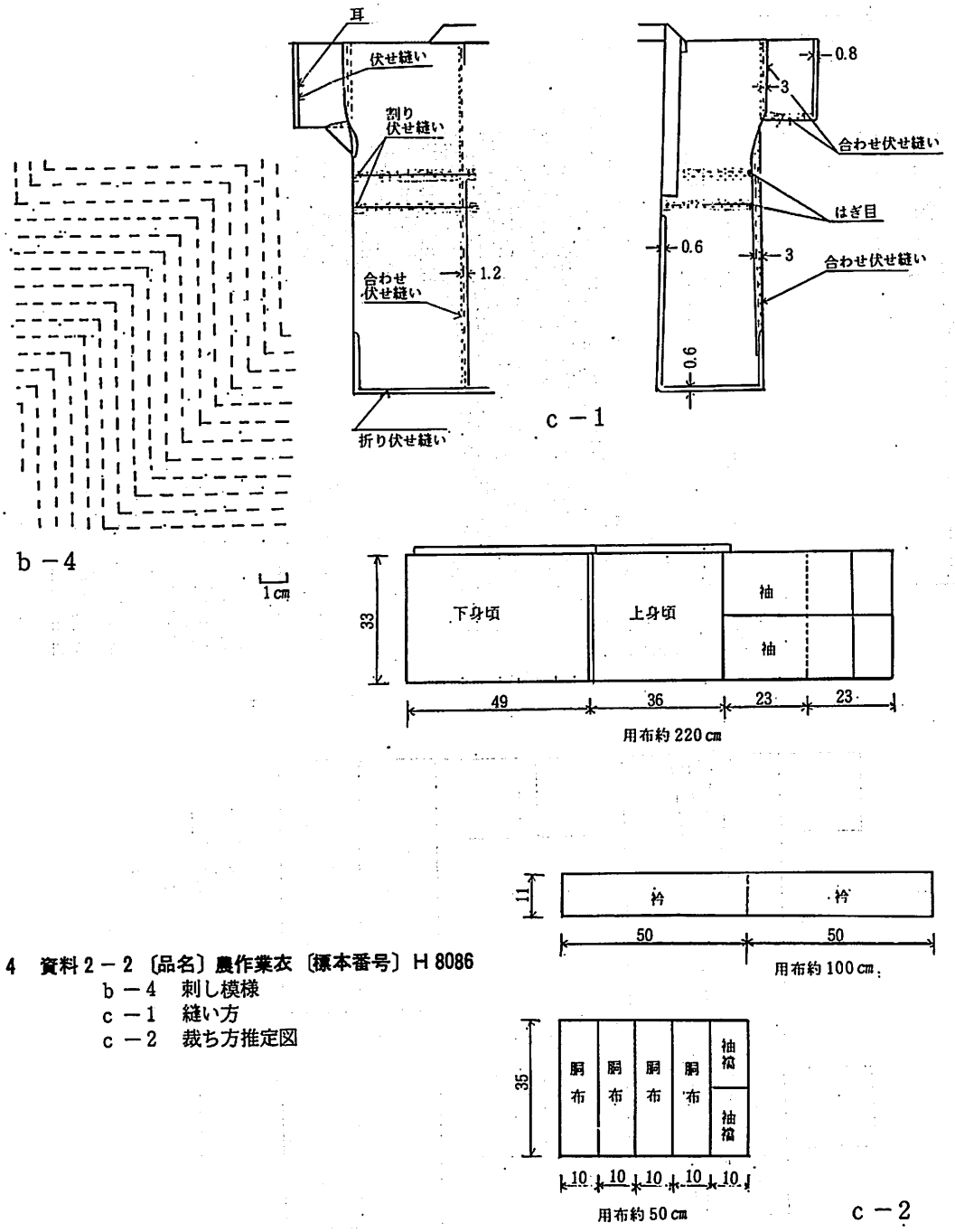


図 4　資料 2 － 2 〔品名〕農作業衣 〔標本番号〕 H 8086
b － 4　刺し模様
c － 1　縫い方
c － 2　裁ち方推定図

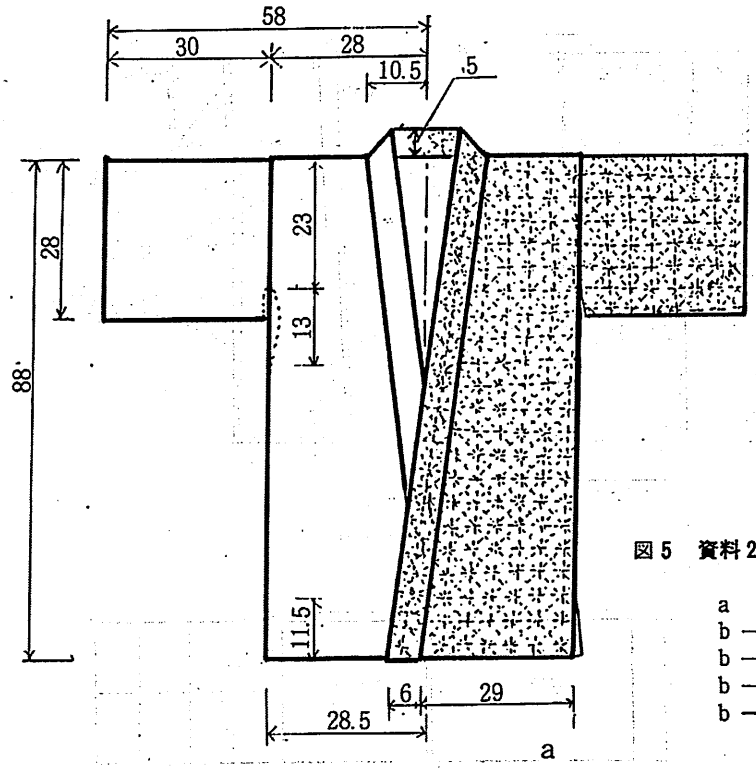
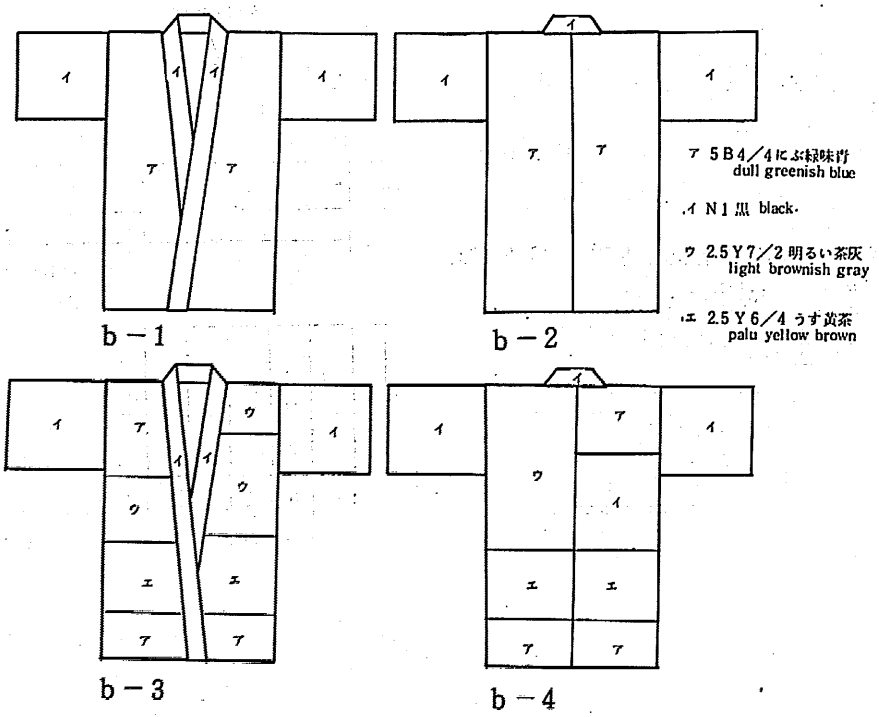
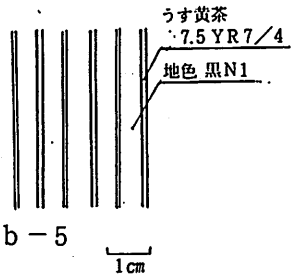
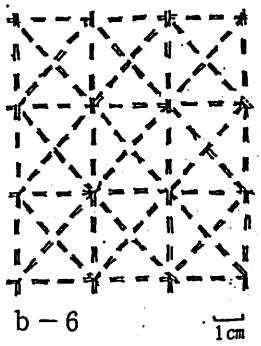


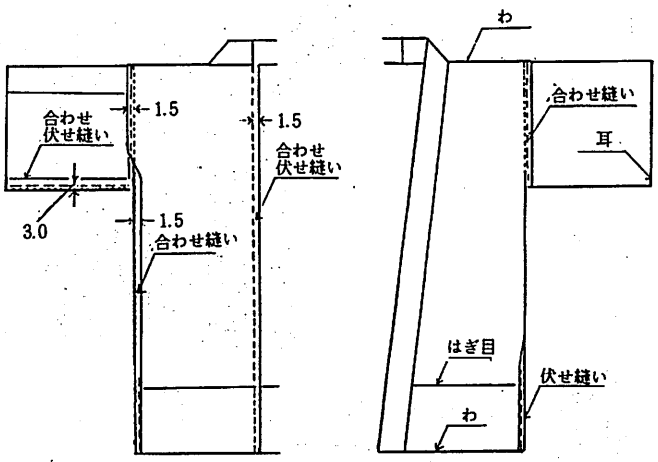
図5　資料2－3〔品名〕ヤマジバン
〔標本番号〕H16513

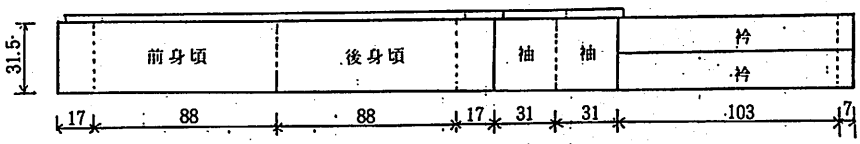
a　形状図
b－1　織布配置図　表，前面
b－2　織布配置図　表，後面
b－3　織布配置図　裏，前面
b－4　織布配置図　裏，後面



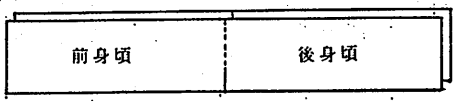




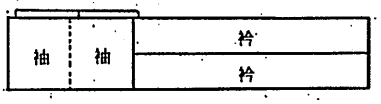




c－2　　総用布約 655cm



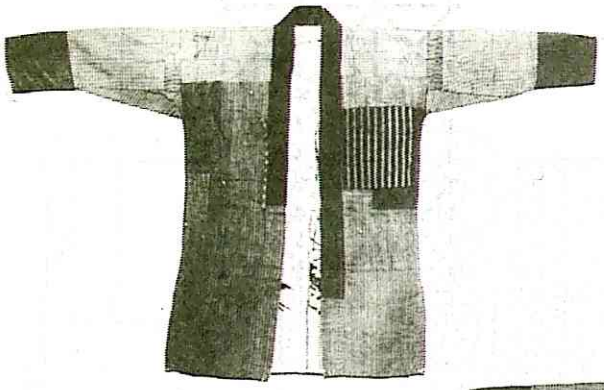
c－3　　用布約 420cm.



用布約 235cm

図6　資料2－3〔品名〕ヤマジバン〔標本番号〕H 16513

b－5　袖と衿の縞柄
b－6　刺し模様
c－1　縫い方
c－2　裁ち方推定図　全体図
c－3　裁ち方推定図　布別部分図



1

2

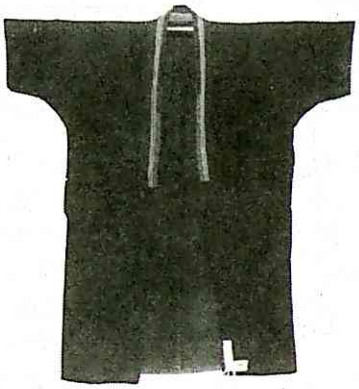
3

4

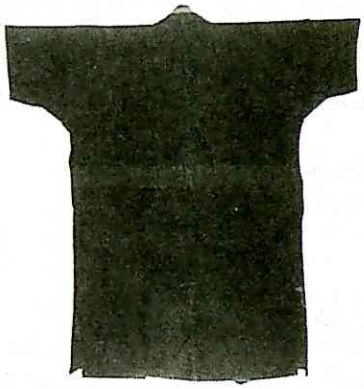
写真１
資料２－１　鉄砲袖袷短衣
　１　表，前面
　２　表，後面
　３　裏，前面
　４　裏，後面

1

2



3



4

5

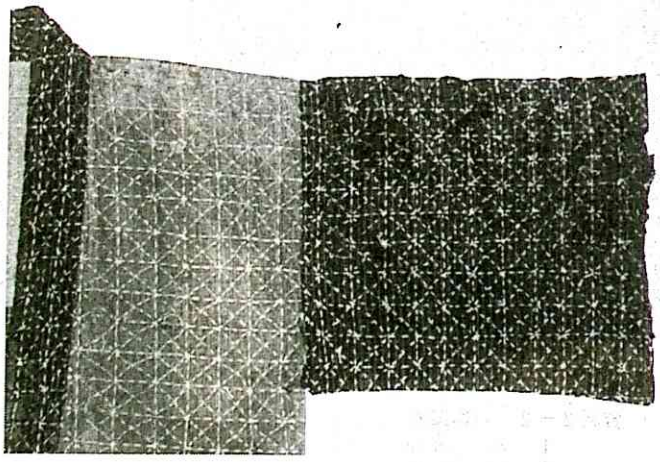
写真２
資料２－２　農作業衣
1　表，　前面
2　表，　後面
3　裏，　前面
4　裏，　後面
5　部分の拡大

1

2

3

4



5

写真３
資料２－３　ヤマジバン
1　表，前面
2　表，後面
3　裏，前面
4　裏，後面
5　部分の拡大